

K E N K Y U S H A

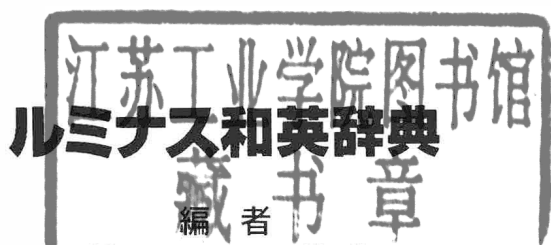
LUMINOUS

JAPANESE-ENGLISH
DICTIONARY

K E N K Y U S H A

LUMINOUS

JAPANESE-ENGLISH
DICTIONARY



小島 義郎・竹林 滋・中尾 啓介

研究社

K E N K Y U S H A

LUMINOUS

JAPANESE-ENGLISH DICTIONARY

初版 第1刷発行 2001年1月
第6刷発行 2002年7月



ルミナス和英辞典

編者 こじまよしろう たけばやししげる なかおけいすけ
小島義郎・竹林 滋・中尾啓介

発行者 荒木邦起

発行所 株式会社 研究社

〒102-8152 東京都千代田区富士見2-11-3

電話 編集 03(3288)7711

営業 03(3288)7777

振替 00190-3-32260

<http://www.kenkyusha.co.jp/>

組版・印刷 研究社印刷株式会社

製本 株式会社 ケイ・ビー・ビー (研究社製本)

ISBN4-7674-2228-0 C7582

PRINTED IN JAPAN

まえがき

『ルミナス和英辞典』は学生・一般社会人の方々を対象に編集した和英辞典で、収録語彙は携帯版では最大の約9万である。

本辞典の根源となった辞書は1984年に出版した『ライトハウス和英辞典』である。同辞典は従来の和英辞典のあり方を根本から見直し、完全な発表用辞典(active dictionary, encoding dictionary)を目指した。それは言い換えれば、英和辞典を引き直さなくてもよい完全な発信型和英辞典を作ることであった。完成までに11年を費やしたその辞典は幸いにも絶大なご好評をいただき、1990年には第二版を出版した。

その後、1995年には同辞典の内容を大幅に充実・改善した『カレッジライトハウス和英辞典』を出版したが、本辞典は同書の内容を根本的に検討し直し、収録語彙を飛躍的に増大し、『ライトハウス和英辞典』の基本的な特色はそのまま生かしながら新たな和英辞典として編集したものである。次に本辞典の特色をあげる。

(1) 収録語句数9万の豊富な百科的語彙。

基本的・一般的語彙のほかに、ビジネス・コンピューター用語をはじめ、有用な専門的カタカナ語、社会人用の語句や専門語などを多数収録した。また、和英辞典を真に有用な発表用辞典にするには収録語彙を百科的にしなければならないというのが編者らの考えである。これは日本人としてわが国特有の文化に根差した事物・習慣・できごとなどについて英語で説明するときのことを考えれば容易に理解できるであろう。本辞典で「左大臣」「右大臣」「征夷大將軍」「元寇」「倭寇」「老中」他多くの日本史用語をはじめ、相撲の決まり手、柔道の技、仏教用語、「さんずい」「にんべん」「しんしょう」「うかんむり」他多数の漢字の旁・偏の名などを見出し語に入れたのはそのためである。百科事典のような詳細な説明はできないが、英語話者に理解してもらうために最低限必要な英訳や英語での説明を与えたつもりである。以上の他に、本辞典では英米を中心に世界の重要人名、国名、地名、歴史的人名などの他、カタカナ書きの名がどのようなスペリングかを示すために、英米の一般的なファーストネームを網羅的に収録した。

(2) 充実したコロケーション情報。

「コロケーション」とは語と語との決まった結び付き方である。発表用辞典としての和英辞典ではコロケーション情報がきわめて重要だが、用例だけでは到底示しきれない。そこで本辞典では非常に多数のコロケーションを囲み記事としてまとめて示した。また、多様な文型で用いられる語についてはその文型情報をまとめて「構文コロケーション」という囲みを作って示した。そのような語については文型情報を一か所にまとめて示すことが有用であると考えたからである。

(3) 行き届いた発音表記.

発音表記は発表用辞典には不可欠なものであるが、本辞典では専門語や固有名詞が多数収録されているので発音表記は特に重要である。必要と思われる語には徹底的に発音を示し、アクセント表示だけで十分と考えられるものには第一、第二アクセントを示した。なお、本辞典では英語特有のリズムによるアクセントの移動を表示しているので、使用に当たってはぜひ巻末解説の「アクセントの移動」の項目をお読みいただきたい。

(4) カタカナ語にも意味を付けた.

本辞典ではかなり専門的なものまで含めて非常に多数のカタカナ語を収録したので、あまり日常的ではないカタカナ語も見出し語に入ることになった。一般に日常的ではないカタカナ語は見覚え、聞き覚えはあっても意味がわからないということが多い。そこで本辞典では、そのようなカタカナ語には必ず簡潔な意味または使用分野表示を添えることにした。

(5) ネイティブスピーカーによる英語表現の厳密なチェック.

本辞典の英語表現のチェックは3人のネイティブスピーカーの編集委員によって徹底的に行った。チェックに当たっては、何度もネイティブスピーカー編集委員と日本人スタッフとの間で討論を重ねた箇所も多く、その記録をまとめれば有用な語法・日英比較の参考書になると思われるほどであった。

以上の特色に加えて、本辞典が先行の『ライトハウス和英辞典』『カレッジライトハウス和英辞典』から引き継いだ特色の中から重要なものを次にあげる。これらの特色を引き継ぐことによって、本辞典の基本的編集理念は『ライトハウス和英辞典』の発足当時と全く同じであるということを特に強調しておきたい。

(6) 複数の訳語が並記される場合には、入れ替え可能でない限り必ず意味または文体上の区別を記述した.

(7) 文体上の区別は「前者のほうがぐだけた表現」「この順に格式ばった言い方になる」などのように相対的な記述にした.

(8) 訳語は見出し語の日本語の品詞にこだわらず、意味を中心に記述した。付されている品詞は訳語のものである.

(9) 日英比較を重視し、随所に **日英比較** 欄を設けた.

(10) 語法・文体上の注意、選択制限、非文情報などを **語法** 欄や ★ を用いてできるだけ詳しく記述した.

(11) 重要な基本語の記述はスペースを惜しまず詳細に行った.

(12) **【類義語】** 欄を随所に設けて類義語間の意味の区別を記述した.

(13) 用例の多くに (⇒) の印で英語の発想法に切り替えるための発想指示を付けた。ただし文型を示したほうが有効と思われる場合には文型を表示した.

(14) 用例は可能な限り複数の訳例を示した.

(15) コミュニケーションのための概念・機能別の表現のまとめ、文章構成

のための基本的事項、日英の文化の相違などについての囲み項目を随所に設けた。

- (16) 翻訳・作文上必要な情報を「巻末解説」として巻末に載せ、本文と縦横に相互参照させた。
- (17) 複合語の見出し語はすべて第一要素で引けるようにした。
- (18) 理解のために必要と思われる挿絵、写真、図版などを豊富に入れた。
- (19) 動詞には ㊦ ㊧ の区別、名詞には ㊢ ㊣ の区別を示した。
- (20) 限定用法のみの形容詞には ㊤ を、叙述用法のみのものには ㊦ を付した。
- (21) 本辞典と姉妹関係の『ルミナス英和辞典』との間で、いわゆる相互乗り入れの形で相互に参照記号を付けた。

本辞典の作成に当たっては、編集委員、執筆者、および調査・校正協力者の方々に多大なご尽力をいただいた。これらの方々の中で、編集委員の緒方勲氏、レジナルド・スミス氏、執筆者の久保田泰夫氏の三氏を執筆・編集作業の完了後に相次いで失ったことは我々にとって大きな損失であり痛恨事であった。編者については、本辞典とその姉妹辞典『ルミナス英和辞典』とは小島、竹林の両名が共通であり、その編集理念を一にしているが、本辞典すなわち『和英』では小島が、『英和』では竹林が総括的な責任者である。研究社にあっては、編集部の早川真一氏、大島澄子氏に編集担当者として最初から最後までお世話になった。また印刷については研究社印刷株式会社の多くの方々にお世話になった。ここに記して深く感謝申し上げる。

編者、編集委員、執筆者一同精一杯の努力をしたつもりであるが、思わぬ不備な点があるかもしれない。各位のご教示、ご叱正を賜らば幸いである。

2000 年 10 月

編 者

この辞書の使い方

1 見出し語

1.1 表記: かな見出しを採用し、五十音順に配列した。

1.2 配列: 清音, 濁音, 半濁音の順に配列した。

こうとう 口頭, こうどう 行動, ごうとう 強盗, ごうどう 合同
はは 母, はば 幅, ばば 馬場, パパ

1.3 促音・拗音: 促音の「っ」、拗音の「ゃ」「ゅ」「ょ」は、それぞれ「つ」「や」「ゆ」「よ」の後に置いた。

ねつき 寝付き, ねつき 熱気
きやく 規約, きやく 客

1.4 長音符: カタカナ見出し中の長音符(ー)は、その直前の文字を長く伸ばした音を「ア」行の音に置き換えた位置に配列した。

パーマ→パ^アマ, ビール→ビ^イル, クーラー→ク^ウラ^ア,
ボール→ボ^オル

1.5 同音語: 同音語は引きやすさを考慮して、使用頻度が高いと思われる順に配列し、肩番号を付けた。ただし、カタカナ表記の外来語はひらがな見出しの後に置いた。

けっこう¹ 結構, けっこう² 決行, けっこう³ 血行, けっこう⁴ 欠航
おん¹ 恩, おん² 音, オン

1.6 ハイフン付きの見出し: 助詞, 助動詞, 接頭辞, 接尾辞など、独立して使われることのない語は、ハイフン(-)を付けて見出しにした。

-で¹, -で², -と, -という, -ので, -のに, -したい, -ねばならない

1.7 色付きの基本語: 特に重要な基本語は色付き文字で示した。その数約 1,500 語である。

好き¹ 好き — 動 like ㊤; be fond of...; love ㊤; adore ㊤; prefer ... (to ...); care for ... — ㊤(気に入っている) favorite (㊤英) favourite) ㊤; (好きで得意な) pet ㊤.

2 訳語

2.1 意味上の区別: 訳語が複数にわたり、意味上の区別やニュアンスの違いがある場合はセミコロン(;)で区切り、訳語の前に丸カッコでその違いを示した。意味領域、使用頻度、文体上から訳語の代表になり得るものがある場合には「★最も一般的な語」という注、あるいはそれに準じる注を施した。

あたえる 与える give ㊤(過去 gave; 過分 given) ★一般的で平易な日常語。以下の語の代わりに用いられることも多い; (贈り物として進呈する) present ㊤; (賞などを) award ㊤; (権利・許可・金品などを) grant ㊤ ★やや改まった語; (必要なもの、不足しているものを供給する) supply ㊤, provide ㊤ ★後者は備蓄のためというニュアンスがある; (割り当てる) allot ㊤; (仕事などを) assign ㊤.

じゅうだい¹ 重大 — ㊤(重要な) important ★最も一般的な語; (深刻な) serious /s(ə)riəs/; (特に憂慮しなくてはならないほど重大な) grave ★serious よりも grave のほうが意味が強い。

ほぼ同じ意味で交換して用いられる場合はコンマ(,)で区切って列記したが、文体上の差が認められる場合は★を用いてできる限り記述した。その際、列記したものが同じく口語的と思われる場合でも「★後者のほうがより口語的」のように比較相対的な説明を加えた。

2.2 文体上の区別: 訳語の文体上の差異については全般にわたって特に注意を払い、★を用いてできる限り詳しく記述した。基本的には単に「略式」「格式」などの絶対値を与えるのではなく、前項に述べたように、列記された訳語の中での相対関係として「後者のほうが格式ばった語」とか、「以上の中では最初の語が最も格式ばった語」などのような説明を施すように努めた。従って「前者のほうが格式ばった語」とあっても、「前者」が

絶対値として必ずしも《格式》というレベルに属するとは限らない点に注意されたい。ただし、明らかに絶対値が示せる場合には2.3にあるような記号で表示してある。

すまず¹ 済ます 1 《終える》: finish ㊤, get through ... ★ 後者がより口語的; (やり終える) complete ㊤ ★ 前の2語より改まった語。

すいりょう¹ 推量 — ㊤ (当てずっぽうをする) guess ㊤ ㊥ ★ 最も口語的; (不確かな根拠に基づいて推測する) conjecture ㊤, 《格式》 surmise ㊤。

また、区別をきめ細かにするために「やや」という表現を用いて、「やや格式ばった語」とか「やや文語的」のような中間段階をもうけた。「格式ばった」「改まった」「堅苦しい」はほぼ同じ意味で用いてあり、統一はしなかったが、「文語的」は主として書き言葉で用いられる文学的表現という意味で区別してある。

かなり — ㊤ pretty; fairly; rather [語法] これら3語のうち、pretty が最も一般的でくだけた語。意味の強さの点では rather が最も強く、fairly が最も弱い; (相当地に) considerably ★ やや格式ばった語。

かなた 彼方 — ㊤ (遠くに) 《略式》 a long way off; far away, far off, in the distance ★ far away, far off はやや文語的。最後のはやや改まった言い方。

2.3 《略式》、《格式》など: 前項のように、訳語が複数ある場合はできるだけ文体の差異を相対的に示すよう心がけたが、「常に格式ばった文脈で使われる」「常にくだけた文脈で使われる」などのような訳語には以下に示す記号を付けた。

《略式》 くだけた感じの語・句で、特に友人・家族のような親しい人同士の会話や手紙に使う。([語法] や ★ による説明文中では同じ意味で「口語(的)」という表現も用いている。)

《格式》 格式ばった語・句で、公式の改まった場面でのスピーチや公文書・商業文などに用いる。

《俗》 《略式》よりもさらにくだけた品位にかける語・句で、普通限られた仲間うちで用いたり、特殊な効果を狙って使う。

《卑》 卑わいな、または差別的な品のない語・句で、人前で使ってはいけないとされる。

《文》 硬い文学作品や改まった文書に用いられる語・句。

《幼児》 主に幼児や子供が使う語・句。

2.4 品詞: 見出し語の品詞にこだわらぬ訳語をあげた。そのため — ㊤ — ㊥ — ㊦ — ㊧ — ㊨ — ㊩ — ㊪ — ㊫ — ㊬ — ㊭ — ㊮ — ㊯ など、英語の品詞を表示し、品詞ごとに訳語をまとめた。この場合、見出し語を英語に置き替える際に最も多く使われる品詞の項を最初に示した。なお、訳語が2種以上の品詞にわたる場合、あるいは訳語の品詞が1種類でも、見出し語の日本語の品詞と食い違いがある場合には品詞を掲げ、その他の場合や品詞を示すことにあまり意義がない場合は品詞を示していない。

しんせつ¹ 親切 — ㊥ (親切な・優しい) kind; (性格として) kindly; (人に対して道徳的に振舞う) good; (友好的な) friendly; (温かくもてなす) hospitable; (優しく思いやりがあって) tenderhearted; (寛大な) generous. — ㊤ (親切に) kindly; (優しく) tenderly; hospitably. — ㊤ kindness ㊤ ★ 「親切な行為」の意では ㊥; kindliness ㊥; (優しさ) friendliness ㊥; hospitality ㊥。

ていき² 提起 — ㊤ (問題・質問などを) bring up ㊤, raise ㊤。㊥ 彼は重大な問題を提起した He brought up an important question.

しみん¹ 市民 (市民・国民としての権利を持つ人) citizen ㊥。

2.5 配列: 訳語の配列の順序については、見出し語の訳として最も適当と思われるものを最初に掲げるようにした。従って見出し語の日本語によっては、より格式ばった英語が先に置かれ、口語的で一般的な英語が後に並べられている場合もしばしばある。

2.6 《英》の表示: 訳語はアメリカで一般的に使われているものをあげ、もっぱらイギリスで使われるものについては《英》の表示をした。またアメリカ英語については、特に《英》との対比を示す場合のみ《米》の表示をした。

2.7 C, U: 数えられる名詞には ㊥, 数えられない名詞には ㊦ を表示し、どちらともとれる ㊥㊦ は避けて、見出し語との関連において ㊦ または ㊥ に割り切って表示し、さらに必要な場合には「★ 具体的なものを表す場合は ㊥」のような説明を加えた。詳しくは ㊥ 可算・不可算名詞 (巻末)。ただし、定冠詞を付けて訳語としたもの、複数形で訳語となるものについては ㊥ ㊦ を示していない。

以上のように文型は日本文と英語の訳文との間に < > を用いて置かれている。これは日本文を見て、英訳する前に意味と文法の両面から、英語の文構造の基本となる形を明確にしておくためである。なお、文型の記述法は『ルミナス英和辞典』に準じているので、詳しくはその巻末の解説を参照されたい。

また、その他に構文コロケーション(☞ 6. 1)ではさまざまな構文のパターンを一括して示している。

3. 5 対話形式の用例: 必要に応じて、問いかけの文章には答えの文章を、答えの文章には問いかけの文章を与え、対話形式の用例を多く採り入れた。

けっこう¹ 結構 2《拒絶》 ①「たばこはいかがですか」「結構です。私はたばこは吸いませんで」“How about a cigarette?” “No, thank you. I don't smoke.”
②「コーヒーをもう1杯いかがですか」「もう結構です。十分にいただきました」“How about another cup of coffee?” “No, thank you. I've had enough.”
3《是認》 ①「これでよろしいでしょうか」「非常に結構です」“Is this all right?” “Yes, that's perfectly all right.” ②許可の表現(囲み) ③「ペンは持っておりません」「鉛筆で結構です」「I don't have a pen.” “A pencil will do.”

3. 6 (/) と (//): はほぼ同じ意味で異なった言い回しや、スピーチレベルの異なる英文をできるだけ多く示し、文の区切りを斜線(/)で示した。なお、二重の斜線(//)は別の用例が続くことを示す。

3. 7 [語法], [参考], [日英比較], ★ などにより、用法上の注意や、文化的な参考事項を数多く示した。

4 参 照

4. 1 ☞: 本辞典では☞の記号を用いて他項目参照をできる限り徹底するように努めた。他項目参照は類義項目、関連項目はもとより、特に囲み・巻末解説への参照を徹底するように努めた。また、『ルミナス英和辞典』への参照も適宜行っている。主として英和辞典巻末の文法用語解説への参照だが、これによって一層多角的・立体的な情報を得ることが可能となるので、ぜひ活用していただきたい。

5 成句(慣用句)、複合語見出し

5. 1 成句(慣用句): 日本語の慣用句で、見出し語の訳語とは別種の訳語・訳文が当てはまるものは、日本語の成句として独立させ、用例の後、複合語見出しの前に、五十音順で配列した。

あたま 頭 1《頭部》: (首から上) head ㉔; (頭髮) hair ㉕

頭が上がらない ①あの人には「頭が上がらない(⇒義理がある) I am under an obligation to him. / (⇒太刀打ちできない) I can't compete with him.

頭が痛い ①この問題は「頭が痛い(⇒解決が難しい) This problem is 'hard [difficult] to solve.

頭が堅い(柔軟性がない) not 'flexible [adaptable]; (頭が切れない) not sharp; (鈍い) dull.

頭隠して尻隠さず ①それは「頭隠して尻隠さずだ(⇒だちょうのように頭を砂に突っ込むようなものだ) It's like burying your head in the sand like an ostrich.

【参考】だちょうは追われると砂の中に頭を突っ込み、隠れたつもりでいるといわれる。

頭が古い ①あ的人是少し「頭が古い(⇒考えが旧式だ) He is rather old-fashioned in his ideas. / He has old-fashioned ideas.

頭から — 圖(きっぱりと) flatly ㉖(きっぱり). ①彼はそこにいたことを「頭から否定した He flatly denied (his) having been there.

頭にくる(腹が立つ) get mad (at ...). ①私は彼が約束を破ったので「頭にくた I got mad at him because he broke his promise.

頭を抱える ①彼は「頭を抱えてしまった(⇒途方に暮れた) He had no idea what to do. (☞ かかえこむ)

頭を下げる ①あいつに「頭を下げるのはごめんだ(⇒屈服するのはいやだ) I won't bow down to him.

頭を冷やす(冷静になる) cool 'off [down] ㉗; (落ち着く) calm down ㉘.

頭数 the number (of people), head ㉙. ①「頭数を数える count heads 頭金 down payment ㉚(☞ てつけ; げんきん; うちきん) 頭でっかち — ㉛ top-heavy.

— ㉜(学者ぶって理屈ばかりこねる人) pedant ㉝.

5. 2 複合語: 見出し語に準じる複合語(2 つ以上の語が結びついてできた語)は、成句の後に、五十音順で列記した。

5.3 複合語のひき方: 複合語の見出しはすべて第一要素びきとした。例えば天然ガスは「てんねん 天然」の項に入っている。しかし、ガスの項の用例にも入れてある。このように複合語を第二要素の項目で再度取り上げるときは一貫して用例として示したが、重複も辞さず、複合語をすべて第一要素びきとしたことによって、使用者は複合語をどの要素でひいてよいか迷う必要がなくなったと信ずる。複合語はまとめて主見出しの中で扱う(成句の後に置く)か、もしくはそれぞれを独立した主見出しとして扱うか、語によって原則としてどちらかに統一してある。

てんねん 天然 — ㊦ natural (↔ artificial) (㊦ しぜん)。天然ガス natural gas ㊦ 天然記念物 natural monument ㊦ 天然ゴム natural [crude; raw; unprocessed] rubber ㊦ 天然資源 natural resources ★ 複数形で。天然色(自然の色) natural color ㊦ (㊦ カラー) 天然繊維 natural fiber ㊦ 天然染料 natural dye ㊦ 天然林 natural forest ㊦。

ガス 1 «燃料用ガス»: gas ㊦ (㊦ きたい); (プロパンガス) propane gas ㊦。
 ㊦ *ガスを出して[止めて]下さい Turn 'on [off] the gas, please. // *ガスの火を弱く[強く]しなさい Turn the gas 'down [up (high)]. // ここには*ガスが来ていますか Do we have gas available here? // 天然*ガス natural gas

6 コロケーション

6.1 「構文コロケーション」と「コロケーション」の困み: 英語で情報を発信する際に、文の骨格となる構造が正しく組み立てられていること、個々の語が自然な結びつきをなしていることが重要である。本書では用例に文型を示すことで(㊦ 3. 4) 構文に関する情報を与え、訳語欄、用例で語句の結びつきに関する情報を与えている。構文コロケーションは構文に関するより詳しい情報を与えるために、動詞、名詞、形容詞がとるさまざまな構文のパターンを一括して示している。また語句の連語関係を示すコロケーションは、英語で発信する際に必要となる多様な表現を示した。それぞれコロケーションの基語から必要な情報を探すことができる。

コロケーションの基語(base)は「鈍い痛み」に対する英語(a dull pain)のように「形+名」や「客を出迎える」に対する英語(greet a guest)のように「動+名」の場合は「名」, 「きれいに書く」に対する(write neatly)のような「動+副」の場合は「動」としてある。「人に(手紙を)書く」に対する英語(write (to) a person)のような「動+前+名」の形式で動詞と前置詞の結びつきを示す場合も「動」を基語としてある。コロケーション情報は訳語欄や用例としても記述しているので両方を探していただきたい。

ふへい 不平 — ㊦ dissatisfaction ㊦; discontent ㊦ ★ 両者とも具体的なものをいうときは㊦; complaint ㊦; grievance ㊦。 — ㊦ (不平を言う) complain (about ...; of ...) ㊦; (ぶつぶつ不平を言う) grumble (about ...; at ...; over ...) ㊦。

【類義語】 通例ははっきりした原因がある一時的な不満が dissatisfaction。より一般的で根深い不満が discontent。口語的で、不平・不満や泣き言を言うこと、あるいは泣き言の原因が complaint。少し格調ばった語で苦痛・悲嘆の原因・理由などが grievance。(㊦ くじょう (類義語); ふまん; もんく)

— 構文コロケーション —

complain (+副)
 complain + of [about] + 名・代(物・事)
 complain + to + 名・代(人)
 complain + that 節
 complain + to + 名・代(人) + that 節

いらい 依頼 1 «願い» — ㊦ request ㊦ ★ 具体的には㊦。 — ㊦ (頼む) ask ㊦, request ㊦ ★ 後者のほうが格調ばった語。(㊦ たのみ)。
 ㊦ 彼の依頼でまいりました I came at his request. // 彼是我々の再三にわたる援助の依頼を拒絶した He 'declined [refused] our repeated requests for help. // 私は彼にクラスの代表として会に出ることを依頼した I requested him to attend the conference as the representative of our class. // 弁護士に依頼する(⇒相談する) consult a lawyer / (⇒雇う) hire a lawyer / (⇒まかせる) leave [entrust] ... to a lawyer // *依頼に応ずる agree to [comply with; grant] someone's

形+名

厚かましい依頼 a brazen request
 変わった依頼 an unusual request
 公式の依頼 an official request
 口頭[文書]による依頼 an oral [a written] request
 個人的な依頼 a personal request
 正式な依頼 a formal request
 切なる依頼 an earnest request
 ちょっとした依頼 a small request
 電話による依頼 a telephone request
 無理な依頼 an unreasonable request

動+名

依頼に応ずる agree to [comply with; grant] a request
 依頼をかなえる fulfill [act on] a request

7 囲み項目

7.1 「コミュニケーションのための概念・機能別の表現のまとめ」「文章構成のための基本的事項のまとめ」「日英の文化の相違についての情報」、あわせて70の囲み項目をもうけた。実際の会話表現に役立つものが多数あるので、2ページ後の索引もご覧になり、ぜひ活用されたい。

8 巻末解説

8.1 句読点, パラグラフ, 比喩, つづり字, 語法, 文法など英文を書くときに必要な技術的な知識を74項目にまとめて巻末に収録した。

9 挿絵, 写真

9.1 集約的に単語の知識が得られる総合挿絵, 日英の文化的な違いを示す挿絵, 米英の揭示の写真などを多く採り入れて理解の助けとした。

10 記号, 略号

10.1 記号: この辞書で使われている記号には次のようなものがある。

- () (1) 訳語の前で, 意味の説明を包む。
- (2) 上記以外の箇所では, 省略可能な文字・語句を包む。
- [] 入れ替えて用いることが可能な語句を包む。
- 「 [] の箇所と入れ替え可能な語句の始まりを示す。ただし日本語においては自明であるため省略した。
- 《 》 語形変化, 略語を包む。
- « » 見出し語がいくつかの語義に分かれる場合, 語義番号に続けて
« » 内にその語義を簡略に示した。
- / / 発音表記を包む。
- (⇒) 発想指示を包む。
- (↔) 反意語を包む。
- 《☞ 》 参照すべき項目の見出し語を包む。
- ¶ 用例の最初を示す。
- / 用例中で, 1つの日本文に対し2つ以上の英語の表現を出す場合
には / で区切る。
- // 別の用例が続くときに, 用例全体を区切る。
- * 用例の日本文における見出し語該当箇所を示す。
- ~ 既出の単語と同じつづり, または発音を表す。

既出の単語が一部変わるとき(先頭 1 文字が大文字になるとき等)の変わらない部分を表す.

(1) つづり本来のハイフン

(2) 複数形(およびその発音)等で一部が変わるときの変わらない部分を表す.

- 1 つの単語を行末で途中で切るときのハイフン.

★ 注意すべき説明.

10.2 略号: この辞書で使われている略号には次のようなものがある.

名	名 詞	形	形容詞	《米》	米国用法
固	固有名詞	副	副 詞	《英》	英国用法
代	代名詞	接	接統詞	過去	過去形
動	動 詞	前	前置詞	過分	過去分詞形
自	自動詞	感	感嘆詞	現分	現在分詞形
他	他動詞	接頭	接頭辞	動名	動名詞
助	助動詞	接尾	接尾辞	複	複数形

囲み項目 索引

あいさつ	4	新聞の英語	981
相づち	6	推量の表現	994
味	24	数字	996
家・部屋	76	スポーツ	1023
意思・願望の表現	89	政治・経済	1042
衣服	122	選択の表現	1089
依頼の表現	129	台所・家事	1157
インターネット	139	提案・勧告の表現	1314
受身	150	手紙の書き方	1327
大きさの表し方	219	天候の表現	1355
会社の組織と役職名	291	電話の英語	1364
買い物	304	動物の鳴き声	1389
数の数え方	347	時・期間の表し方	1399
学校・教育	365	度量衡	1448
仮定の表現	371	日記	1509
可能の表現	380	日本固有の風物と英語	1513
感謝の表現	421	乗り物	1563
感情の表現	424	比較の表現	1656
感嘆の表現	429	否定の表現	1679
擬声・擬態語	460	病気・病院	1700
義務の表現	478	頻度を表す副詞	1717
強意語	501	訪問の表現	1826
強調の表現	510	ホテル	1844
許可の表現	516	店の呼び名	1910
金銭	535	道のきき方	1913
掲示の英語	599	命令の表現	1955
コンピューター	734	目的・結果の表し方	1976
使役	792	呼びかけ	2061
時刻・日付・曜日	806	理由の表し方	2092
自然災害	819	量の表し方	2097
自動車	842	料理の用語	2103
謝罪の表現	862	旅行	2105
紹介	908	レクリエーション	2117
譲歩の表現	929	レストラン	2119
食事	937	和製英語	2145
親族関係	974		

卷末解説 索引

アクセントの移動	2157	性・数・人称の一致	2171
アポストロフィー	〃	接頭辞	2172
アンダーライン	〃	接尾辞	2173
イタリック体	〃	セミコロン	〃
イディオム	〃	前後関係	〃
意味	〃	相	2174
引用符(号)	2158	総称用法	〃
英作文	2159	代名詞	〃
エトセトラ	〃	多義語	2175
婉曲語法	〃	脱字記号	2176
大文字	2160	ダッシュ	〃
可算・不可算名詞	〃	短縮形	〃
かっこ	2161	つづり字の切れ目	〃
冠詞	〃	訂正	2177
感嘆詞	2162	丁寧な表現	〃
感嘆符(号)	2163	同音異義	2178
擬人化	〃	日本語の消極的表現	〃
疑問符(号)	〃	「はい」と「いいえ」	〃
くだけた英語と堅苦しい英語	〃	ハイフン	2179
句読点	2164	発想	〃
形容詞の2用法	〃	話し言葉と書き言葉	2180
語順	2165	パラグラフ	〃
誇張	2166	パラフレーズ	2181
語法	〃	反意語	〃
コミュニケーション	〃	控えめな表現	2182
コロケーション	〃	比喩	〃
コロン	2167	標準英語	2183
コンマ	〃	ピリオド	〃
再帰代名詞	〃	副詞の位置	〃
字さがり	2168	複数形	2184
時制の一致	〃	文	2185
借用語	2169	文型	2186
自由作文	〃	文体	〃
修辭疑問	〃	翻訳	〃
省略	〃	略語	2187
所有格	2171	類義語	2188
性	〃	話法	〃

あ, ア

ああ Oh!, Ah! 【語法】 前者のほうが一般的で用途も広く、日本語の「ああ」以外に「やあ」「あら」「まあ」((例) Oh, hi, George!), 「ほう(それでどうしたんですか)」((例) Oh? 「上り調子で」)などにも当たる。(ははあ、なるほど) Aha /a:há:/!; (とこで・やつと) now ★ 話題や気分を変えたり、注意を促したりするときなどに用いる; (やれやれ) well ★ 安心・あきらめ・譲歩などの気持ちを表す。〔ア 感嘆詞 (巻末)〕。

『*ああ、きれいだ Oh, how beautiful! 〔ア 感嘆の表現 (囲み)』 *ああ、わかった Aha! Now I understand. // *ああ、(あの子は) かわいそうに The [That] poor 'boy [girl]! // *ああ、もし金があればなあ Ah! [Oh!] If I (only) had money. 〔ア 仮定の表現 (囲み)』 *ああ、思い出した Now I remember (it). // *ああ、やっと着いた Well, here we are at last.

ああいう (あのような) such; (あんな風) like that, that way. 〔ア あんな; そういう)〕。

アーカイブ 一 図 (大規模な記録・資料のコレクション、公文書保管所または古文書) archives /á:kaɪvz/ ★ 複数形。 一 図 (古文書の) archive; archival ★ 後者は「公文書保管所の」の意にもなる。

アーカンソー 一 図 国 (米国の州) Arkansas /á:ka:nsó:/。 一 図 (アーカンソー州の) Arkansan /á:ka:nsən/ 〔ア アメリカ (表)〕。 アーカンソー州人 Arkansan 〔C〕。

アーキテクチャー (建築学・建築様式) architect-ure 〔U〕; [コンピューター] architecture 〔C〕。

アーキテクト (建築家) architect 〔C〕。

アーギュメント (議論・主張) argument 〔C〕。

アークとう アーク灯 arc lamp 〔C〕。

アーケード arcade 〔C〕; (歩行者専用の商店街) mall 〔C〕。

アーサー (男性名) Arthur /á:θə:/。

アージェント (緊急な) urgent。

アース 一 図 (米) ground 〔C〕、〔英〕 earth 〔C〕。

一 動 (米) ground 〔C〕、〔英〕 earth 〔C〕。『洗濯機の *アースを付ける ground [earth] the washer

アースデー Earth Day ★ 4月22日。

アーチ 一 図 arch 〔C〕。 一 図 (アーチ形の) arched。『*アーチ型の入口 an arched doorway

アーチェリー (洋弓術) archery 〔U〕。

アーチボールド (男性名) Archibald /á:ʃbɔ:ld/ ★ 愛称は Archie, Archy て、いずれも /á:ʃj/。

アーティクル (記事・品物・条項) article 〔C〕; 〔文法〕 (冠詞) article 〔C〕。〔ア 冠詞 (巻末)〕。

アーティスティック (芸術的な) artistic。

アーティスト (美術の) artist 〔C〕; (音楽の) musician 〔C〕; (すぐれた演奏[演技]者) artist(c) 〔C〕。

アーティチョーク 〔植〕 (朝鮮あざみ) artichoke 〔C〕 ★ 西洋料理に使う。

アーティフィシャル (人造の・人工の) artificial。

アート art 〔U〕。『モダン*アート modern art

アートディレクター art director 〔C〕。

アーノルド (男性名) Arnold。

アーバナイズーション (都市化) urbanization 〔U〕。

アーバン (都市の) urban。

アーバンウェア (都会風のかあめけた服) stylish [fashionable] clothes ★ 複数形。 〔日英比較

「アーバンウェア」は和製英語。

アーバンライフ (都会生活) city life 〔U〕 〔日英比較「アーバンライフ」は和製英語。]

アーム (腕・腕状のもの) arm 〔C〕。

アームチェア (ひじ掛けいす) armchair 〔C〕; (安楽いす) easy chair 〔C〕。

アメン 一 国 amen。

アーモンド almond /á:mənd/ 〔C〕。

アーリアじん 一 図 (古代中央アジアの) Aryan 〔C〕。 一 図 (アーリア民族の) Aryan。

アール (面積の単位) are /éə/ 〔C〕 (略 a) 〔ア 度量衡 (囲み)〕。

アールアンドディー R and D 〔U〕, R & D 〔U〕 ★ research and development (研究開発) の略。 〔ア 会社の組織と役職名 (囲み)〕。

アールエイチ (因子) Rh factor 〔C〕。『*アールエイチプラス[マイナス]の血液型 an Rh 'positive [negative] blood type

アールデコ 〔美〕 art deco, Art Deco /á:ətdeikó:/ 〔U〕 ★ 1920-30年代にかけてフランスを中心に流行した装飾様式。

アールヌーボー 〔美〕 art nouveau /á:ənu:vó:/ 〔U〕 ★ 19世紀末から20世紀初頭の芸術運動・様式。植物をモチーフにした曲線の特徴とする。

あーん 『*あーんしてごらん (⇒「アー」と言いなさい) Say "ah." ★ ah を発音すると口を一番大きく開くことから、医者が患者に、母親が子供などに言う。

あーんあーん 『子供があーん あーんと泣いていた The child was crying loudly. 〔ア 擬声・擬態語 (囲み)〕

あい 愛 (親子・異性間などの強い愛情) love (for a person; of something) 〔U〕 ★ 最も一般的で、以下の語の代わりにはえる場合も多い; (温和で永続的な愛情) affection (for ...; toward ...) 〔U〕 ★ しばしば複数形で; (愛着) attachment (to ...) 〔C〕。〔ア あいする; あいじょう (類義語)〕。『親の子に対する*愛 parental love // あなたに対する彼の*愛は本物ですよ (⇒彼は本当にあなたを愛している) He really loves you. // 彼女の*愛 (⇒心 [愛情]) を勝ち得るのはだれだろう Who will win her 'heart [affections]? // 彼は祖国*愛に燃えていた He was burning with 'love of his country [patriotism /pétriətizm/].

— コロケーション —

形+名

偽りの愛 false love

永遠の[変わらぬ]愛 eternal [everlasting] love

親[父、母]の愛 parental [fatherly; motherly] love [affection]

かなわぬ愛 hopeless love

真の愛 true [genuine] love

溺愛 blind love

熱愛 burning [torrid; passionate] love

激しい愛 intense [violent] love

深い愛 deep [profound] love [affection]

ほろ苦い愛 bittersweet love

名+動

子供に対する愛 love for one's child

祖国愛 love of one's country

あい 藍 (染料) indigo 〔U〕。 **あい色** indigo 〔U〕, indigo blue 〔U〕。

